

薄久保 香

「かくて円環が開き、」

2022.8.27(sat) — 10.16(sun)



「An experiment based on an accidental law 世界の範囲」2022
oil on panel
photo by Nobutada Omote

この度 rin art association では薄久保香の個展「かくて円環が開き、」を開催いたします。

薄久保の制作は写真を撮影し、そこからCG上でドローイングを行いながら画像を再制作し、最終的に油彩でペインティングをする3段階の過程を経て作品を完成させます。その意図は『偶然の法則による実験』であり、意識だけでコントロール出来ない世界を見つめたいという思いがあります。

多角的な視点を持ち世界を見つめた作品は鑑賞者により必然的な世界の在り方を想起させます。

今展ではベルリンに住む少女(Umeko)、大阪に暮らすメンフクロウ(Kiyo)、ボール紙や大量生産のパーツ、アトリエに使われた建築資材など、一見無秩序な様相ながらその時間にアトリエに『在ることが可能』だったものたちを描いた《An experiment on an accidental low 世界の範囲》やハンス・アルプの作品の形体を引用したシリーズなどからなる計9点の作品を展示いたします。

“束の間の間”

私がアトリエの中で日々行う行為が何かと考えると、偶然的事象と意図した行為の結託から生じた物語を「見えるようにすること」だと言えます。

“セカイ”を把握するために、人間の器の中にある感覚が”現実らしさ”に触れる瞬間は、束の間の出来事であり、そのわずかな瞬間と私がキャンバスに記録する時間の差異からは、計画的には生じるはずが無い読み違いが生じます。この意図したことと、意図せずに出現したことが共存する絵画空間は、他方に存在するのであろう、この世界の慮外な可能性に気付かせてくれるのです。

名前を忘れ夢をみること、人類が自然の脅威を克服すること、そして再び自然が人々を回収するという宿命的な遭遇。相反しながらも切り離せない事象を手がかりに、絵画という小さな枠を通してこの“セカイ”を見続けることは、私のような絵を描く者のありふれた日常であると同時に、時間軸の先にある我々人間と“セカイ”に秘められた一片の可能性を探訪することでもあります。

薄久保 香

薄久保香(うすくぼかおる)

2010年 東京藝術大学大学院美術研究科博士課程美術専攻修了 博士号(油画)取得。

東京藝術大学大学院美術研究科修士課程修了、東京造形大学造形学部美術科絵画専攻卒業。

主な個展に2007年「Wandering season」TARO NASU(東京)、2008年「UPlogist」Wohnmaschine(ベルリン)、「NEXT 2008」(シカゴ)、2011年「crystal moments」LOOCK(ベルリン)、2018年「偶然の法則による実験」taimatz(東京)、2021年「SF-Seamless Fantasy 絵画計画と43,800日の花言葉」MA2ギャラリー(東京)、主なグループ展に2010年「VOCA 2010—新しい平面の作家たち—」上野の森美術館(東京)、「横浜トリエンナー 2011OUR MAGIC HOUR」横浜美術館(横浜)、2013年「ミニマル/ポストミニマル 1970年代以降の絵画と彫刻」宇都宮美術館(宇都宮)、2017年「掛川茶エンナーレ」(掛川)など。

[水-日] 11:00 - 19:00 [月-火] 休廊

contact

rin art association

370-0044 群馬県高崎市岩押町5-24

t:0273-87-0195 e:contact@rinartassociation w:http://rinartassociation.com